

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:52.

大学病院で母乳育児を支援している看護スタッフ現状把握

伊東 明果、鈴木 彩花、阿部 明美

大学病院で母乳育児を支援している看護スタッフ現状把握

旭川医科大学病院 周産母子センター ○伊東 明果、鈴木 彩花、阿部 明美

【目的】

A病院は赤ちゃんにやさしい病院(以下BFH)に認定されているが、母乳育児が自然であることを伝えつつ、どのような母乳育児支援が最適か悩むことがある。他の看護スタッフも同様に感じていないか疑問に思い、現状を知りたいと考えた。

【方法・倫理的配慮】

先行文献を元に質問紙を作成し、倫理委員会承認後質問用紙を配布し同意書に記入をした経験年数3年目以上の7名に質問紙の回答とインタビューを実施した。

【結果】

①完全母乳の必要性を感じていない、②BFHに対する理解が不十分、③母乳を希望していない人のケアに自信がない、④混合栄養を余儀なくされる人のケア

に難しさを感じる、⑤スタッフの考えや支援内容に相違がある、⑥質が向上していない、⑦新人スタッフがケアに対して自信を持たずにいると感じる、これらの7点の問題点があがった。

【考察】

結果から①母乳の利点を自信を持って伝えることができる、②学習会による刺激、③母親の希望をかなえられたと実感できる、④先輩からのフィードバックがある、⑤医療者の方針と関わりの統一、⑥新人教育をすることで母乳がよいと思うことができる、これらの6点が有効であるということが分かった。これらから看護者全てが母乳育児支援が良いと思えること、ケアへの自信とモチベーションのアップが質の向上につながると示唆された。